

ランプ小屋新聞

Echizen

Tsuruga

ランプ小屋とはなにか

初期の鉄道の重要施設

●明治一五年（一八八二年）二月から、金ヶ崎駅を朝六時に出発する列車が運行されました。当時、電灯はいまだ鉄道には用いられず、その結果、まだ薄暗い時間帯に金ヶ崎駅から列車を発車するためには、機関車や客車用、また線路脇の信号灯を含め、大量の石油ランプが必要でした。

●これらのランプの管理は、安全な汽車運行に不可欠であり、当時の鉄道規則において、灯火の注油は屋外でなく必ずランプ小屋内で行うこと、またこれら灯火管理の責任は駅長自らが行うこと、とされていたほどです。

●ちなみに、金ヶ崎駅のランプ小屋は、建設当時は横浜、京都に次ぐ全国でも3番目の大きさで、大阪駅のものよりも大きい

建物でした。

ランプ小屋の煉瓦

●敦賀港駅ランプ小屋の一番の特徴は、壁に使用されている煉瓦です。明治一六年（一八九三年）以降に建造された旧北陸線の煉瓦には、その煉瓦を製造した工場を示す刻印が見られるのに対し、このランプ小屋の煉瓦には、製造を請け負った職人などがそれぞれの仕事分を区別するためにつけたと考えられる、数十種類の刻印が施されています。このような刻印はたいへん珍しく、また古い時期の煉瓦製造方法を示す貴重なものです。

●また、煉瓦を焼く技術も安定していなかったせいか、煉瓦の焼き色がバラバラですが、見方をかえれば変化に富んだ壁色であり、外観のアクセントともなっています。

ランプ小屋
煉瓦の全刻印

板 龙	又	石	近	池	土
	市	斗	南	西	國
	木	泉	角	長	

ランプ小屋新聞

Echizen

Tsuruga

金ヶ崎駅の最初の蒸気機関車について

工事中でも貨物輸送開始

●敦賀港は、日本海に面した諸港から京都・大阪へ物資を輸送する重要拠点であり、明治一四年（一八八一年）二月に足田までの線路が繋がると、早速、工事の合間に限定しつつも、商人達の要求に応じ貨物を運ぶ仮運行が行われました。

最初の蒸気機関車

●この時に、金ヶ崎―足田間で運行を行っていた蒸気機関車は、当時から土砂運搬など工事専用として使われていた英国マニング・ワードル社製一二九〇形蒸気機関車です。明治一三年（一八八〇年）九月に二両が神戸港から航送されたもので、明治一五年（一八八二年）二月に時刻表に基づく本開業が開始になっても、路線の一部の橋脚な

どの補強工事が残っていたことから、この機関車は工事兼用のまま旅客・貨物輸送に使用されました。実際、明治一五年の九月には、氣比神宮の祭礼にあわせて旅客運送の臨時列車を出した新聞記事も残っています。

本格営業時の蒸気機関車

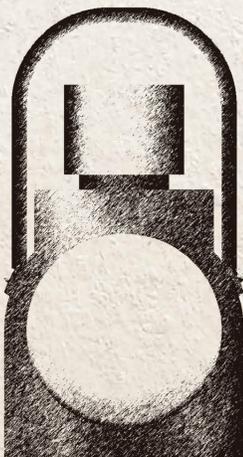
●明治一五年一〇月の福井新聞に、金ヶ崎停車場に新型機関車が届いた記事があり、またそのころまで補強工事がほぼ完了していたことから、すぐにこの新型機関車が運行の中心になったようです。

●この車両は英国キットソン社製一八八〇形蒸気機関車で、その牽引力は一二九〇形の二倍近くを誇り、当時国内有数の勾配区間であった金ヶ崎―洞道口（柳ヶ瀬隧道の西口前）に対応したものでした。

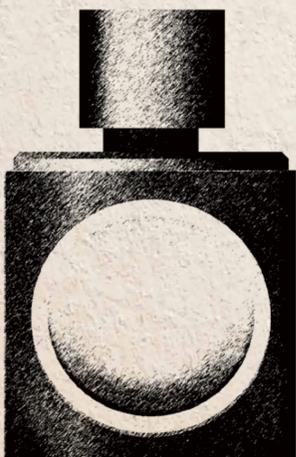
最新鋭

新形機関車の
高性能ランプ

一二九〇形の
ランプ
(肩丸形)



新形一八〇〇形の
ランプ
(箱形)



可脱着手釣

ランプ小屋新聞

Echizen

Tsuruga

ランプの灯油をどこから手に入れたか

灯油の生産・流通

●ランプ小屋で使われていたものを含め、明治一五年（一八八二年）頃の灯油は、ほとんどがアメリカからの輸入品でした。当時世界の石油の半分以上がアメリカで生産され、またドラム缶はまだ発明されてなかったことから、製油所から五ガロン缶（現在の一斗缶）二個を一つの木箱に収めて輸送していました。

灯油の銘柄

●当時の銘柄は、横浜港では缶に刻印された塔のマークから「塔印」と呼ばれたチャスター（タイドウォーター社）が最も多く、また神戸港ではアトランティック製油所製が最も多かったのですが、その外箱が松材であったことから「松印」と呼ばれ、主に関西で普及しました。

●これらの銘柄は、実はすべてロックフェラーが経営するアメリカの「スタンダード石油」の傘下でした。ただ、ブランド銘柄として、買収前の会社のものが使われ続けていたのです。

赤レンガ倉庫の灯油

●明治三八年（一九〇五年）には、紐育スタンダード石油会社倉庫（今の赤レンガ倉庫）が敦賀に建設され、アメリカ産灯油が直接陸揚げされました。

●この石油の輸出元は、記録では「費州」とあることから「フィラデルフィア」のアトランティック社製と推定されます。この石油はその年の輸入総額の九割を占めるほどでしたが、三年後の明治四一年（一九〇八年）には敦賀でも電灯が普及し始め、次第に灯油の需要は減少していきましました。

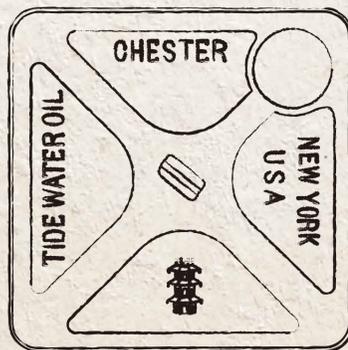
舶来石油缶のデザイン



ロシア
カスピ海・黒海石油会社（碇印）



アメリカ
アトランティック製油会社（松印）



アメリカ
タイドウォーター石油会社（塔印）